2　学習指導案

対象：第1学年70名　授業者：伊藤　絵梨香、堀山　夏帆　場所：1年各教室、廊下

国語科・図画工作科（2教科合科マイプラン学習）学習指導案

<table>
<tr><td>単元名
学習材名</td><td colspan="3">『つくってはなして！はなしてかいて！なりきりめいじんになろう！』
国語科「どんなおはなしができるかな」
図画工作科「いっしょにあそぼう　ぱくぱっくん」</td></tr>
<tr><td>国語科</td><td colspan="3">どんなおはなしができるかな</td></tr>
<tr><td>単元の目標</td><td colspan="3">○句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。
【知識及び技能】
◎場面の様子を想像して物語を書き、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
○言葉がもつよさを感じるとともに、進んで物語を書き、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】</td></tr>
<tr><td>単元の評価規準</td><td>知識・技能
❶句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。
❷文の中における主語と述語の関係に気付いている。</td><td>思考・判断・表現
❶絵の世界の登場人物の様子や、友達とのやりとりから、物語を考えている。
❷文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。</td><td>主体的に学習に取り組む態度
❶「わくわくものがたり」を書くという見通しをもち、すすんで場面の様子を想像し、友達とのやりとりを生かして物語を書こうとしている。
❷「わくわくものがたり」を書くことを通して、相手の文章に積極的に感想を伝えたり、自分の書いた文章のよさを見つけたりして学びを振り返ろうとしている。</td></tr>
<tr><td>図画工作科</td><td colspan="3">いっしょにあそぼう　ぱくぱっくん</td></tr>
<tr><td>単元の目標</td><td colspan="3">○手を使った動きで遊んだり、表したりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。
○紙コップ、紙袋、色紙、はさみなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、気付いたことや思い付いたことをもとに、工夫して表す。
【知識及び技能】
○いろいろな形や色をもとに、自分のイメージをもつ。
◎材料の感じや動かしたときの様子を見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
【思考力・判断力・表現力等】
○楽しくつくったもので動かして遊びながら、試したりつくりかえたりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
【学びに向かう力、人間性等】</td></tr>
<tr><td>単元の評価規準</td><td>知識・技能
❶手を使った動きで遊んだり、表したりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。
❷動きの特徴に合わせた飾りをつけたり、絵を描いたりするなど、表したいことをもとに、表し方を工夫して表している。</td><td>思考・判断・表現
❶いろいろな形や色をもとに自分のイメージをもちながら、材料の感じや動きの特徴をもとにつくりたいものを思い付き、好きな形や色を選んだり考えたりしながら表したいことを考えている。</td><td>主体的に学習に取り組む態度
❶つくったものの面白さを味わいながら、つくりだす喜びを味わおうとしている。
❷仕組みを動かして表したいことを考えながら、楽しく活動に取り組もうとしている。</td></tr>
</table>

ポイント１　図画工作科と国語科を合科的に学習することで、学びの相乗効果を図る

○スタート選択の工夫

国語科「どんなおはなしができるかな」と図画工作科「いっしょにあそぼう　ぱくぱっくん」を合科的な扱いとし、互いの教科で身に付けた力がもう一方の教科での学習を行う際の助けとなるようにした。

【かいてスタート】（「わくわくものがたり」を書くところから始める）

国語の物語を先に書き、図工に取り組むときに、つくりたい「ぱくぱっくん」がなかなか思いつかない児童がいた場合、絵の世界に入り込んで書いた物語の登場人物が、イメージのヒントになるのではないかと考えた。

【つくってスタート】（「ぱくぱっくん」をつくるところから始める）

「わくわくものがたり」で書く物語は、自分がつくった「ぱくぱっくん」が絵の世界に入って登場する。ぱくぱっくんを実際に動かして遊ぶ中で自然に生まれる会話が、物語の展開や登場人物の台詞につながると考えた。

○２教科でひとつのゴールの設定

今単元のゴールは、ぱくぱっくんを使いながら「わくわくものがたり」を紹介しあう活動とした。このことは、導入時のオリエンテーションで児童に伝え、見通しをもって活動できるようにする。２教科でひとつのゴール設定にすることで、ぱくぱっくんをつくるときには自然と物語のストーリーを想像し、物語を書くときにもぱくぱっくんをつくった時のことを思い浮かべながら取り組めるのではないかと考えた。

ポイント２　幼児教育との接続

【環境づくり】

○安心して、思わずやりたくなり、繰り返してつくったり試したり遊んだりできる環境づくり

幼児教育では、子どもの主体性を大切にし、興味や関心をもとに環境構成をしているが、その環境は安心して取り組める前提でつくられている。今単元では活動部屋が３つあるが、どの場所にもやり方に困らないように作業行程や実物見本を置き、不安感のないようにする。また、試行錯誤や友達との関わりを重ねることを重要としている幼児教育の視点から、いつでもどこでも繰り返して試したり、友達と遊んだりすることができるように、大きな舞台絵や、一緒に座れるスペースを準備した。

○お話の舞台を選択させる工夫

児童が書く「わくわくものがたり」の物語の舞台は「山」「海辺」「まち」とした。絵の世界が多様にあることで、つくった「ぱくぱっくん」をそれぞれの絵の中で動かして試しながら、お話のイメージを膨らませていく。思考のもととなる絵を複数用意しておくことは、つくりたい「ぱくぱっくん」を発想していくときの助けにもなると考える。何もないところから自分のアイディアを生み出すのが苦手な児童にとっては、選択肢があることが安心感につながる。

【教師の働きかけ】

○物語の３つの舞台別の児童名簿

「担任２名で７０名の児童を見取る」という意識で取り組んでいる。もちろん、１単位時間で全員を見取ることはできないが、単元全体を通してできる限り多くの児童に働きかけを行うために、児童名簿を持ち歩く。そして、教科の見方・考え方を働かせていたり、自己調整していたり、気になる様子を見せていたりする姿を見かけたら、注視して、写真や動画を撮ったりメモをとったりする。さらに、必要に応じて問いかけ、価値づけを行う。出会う子に手当たり次第に声をかけるのではなく、働きかけを行うのか、見守るべきか、考えながら動いていく。

○問いかけ・価値づけ集

「この子には働きかけを行うべきだ」と判断した場合に、その児童のどの部分に働きかけるのかを意識しながら行う。教科的な側面に対してか、学び方の側面に対してか、また、問いかけるべきか、価値づけるべきかまたはその両方かなど、児童に出会ったその瞬間に、できるだけよりよい働きかけができるように「問いかけ・価値づけ集」を作成した。授業前に前述の名簿を使って前時までの学習の様子を可能な限り確認し、児童の行動を予想しておく。

『つくってはなして！はなしてかいて！なりきりめいじんになろう！』
単元計画（全１２時間）

<table>
<tr><th>内容数</th><th>学習活動</th></tr>
<tr><td>一斉
学習

①
②</td><td>オリエンテーション
「つくってはなして！はなしてかいて！なりきりめいじんになろう！」をしろう
○学習の進め方、ルールを知る。
○おはなしの舞台を選び「学習計画、ふりかえりカード」（学びのてびき）の書き方を知る。
○最後には、ぱくぱっくんが登場する「わくわくものがたり」を伝え合う活動があることを知る。
○「ぱくぱっくん」で使う身近な材料や動きの様子から、想像できるものを見付ける。</td></tr>
<tr><td>個別
学習

③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪</td><td>【４０分の流れ】
○学習計画をもとに、今日取り組むワークスペースに移動する。
○それぞれの場所でワークシート学習や制作活動に取り組む。
○今日の成果物の写真を撮り、提出して自分の教室に戻る。
○「ふりかえりカード」に今日の振り返りを書き、次時の計画を確かめる。

【かいてスタート】
わくわくものがたりをかくから始める
・ぱくぱっくんを誰にするか決める。
・ぱくぱっくんの人柄を考えてアイディアシートにまとめる。
【アイディアシート】
ぱくぱっくんはどんな子かな
○絵の中から誰にするか、その子はどんな性格なのか、についてまとめる。（くらげチャート）
・お話を考えて４コマストーリーにまとめる。
【学習用情報端末】
どんなはなしをしているのかな
○自分の物語の中心となる部分を写真に撮って４コマ分複製する。登場人物たちがどんな会話をしているのか、吹き出しに書いて４コマストーリーにまとめる。
・会話文も含めた文章で書いてみる。
【わくわくものがたり　下書き】
わくわくものがたりをかこう
○物語の流れを、文章の書き方に気をつけて書く。

【つくってスタート】
ぱくぱっくんをつくるから始める
・ぱくぱっくんの材料をえらび、動きや仕組みからイメージを膨らませる。
・ぱくぱっくんの人柄を考えてアイディアシートにまとめる。
【アイディアシート】
ぱくぱっくんはどんな子かな
○これからつくるぱくぱっくんはどんな子で、どんな性格なのか、についてまとめる。（くらげチャート）
・ぱくぱっくんをつくって、遊ぶ。
・遊びながら、形をかえたり、飾りを足したり、小道具などをつくったりする。
・何回か試してみて、完成したら、お話の舞台に連れていって遊ぶ。
・遊びながらどんなお話にしようか考える。</td></tr>
</table>

・書き方に間違いがないか、確認する。

【わくわくものがたり　清書】
わくわくものがたりをかこう
○物語の流れを、文章の書き方に気を付けて書く。

・ぱくぱっくんをつくって、遊ぶ。
・遊びながら、形をかえたり、飾りを足したり、小道具などをつくったりする。
・何回か試してみて、完成したら、お話の舞台に連れていって遊ぶ。

・お話を考えて４コマストーリーにまとめる。

【学習用情報端末】
どんなはなしをしているのかな
○自分の物語の中心となる部分を写真に撮って４コマ分複製する。登場人物たちがどんな会話をしているのか、吹き出しに書いて４コマストーリーにまとめる。

・会話文も含めた文章で書いてみる。

【わくわくものがたり　下書き】
わくわくものがたりをかこう
○物語の流れを、文章の書き方に気を付けて書く。

・書き方に間違いがないか、確認する。

【わくわくものがたり　清書】
わくわくものがたりをかこう
○物語の流れを、文章の書き方に気を付けて書く。

【いつでもエリア】　※いつでも行ってよい

吹き出しカードコーナー
○絵の吹き出しに台詞を書いて楽しむ。

動物絵本コーナー
○どうぶつたちが登場する絵本を読む。

似ているのはどれ？コーナー
○模様がかかれたワークシートを使って似ている模様をさがす。

お気に入りを見付けようコーナー
○お気に入りのアートカードを見付ける。

【発展】　※「わくわくものがたり」と「ぱくぱっくん」が終わってから
○様々な方法で、つくったり書いたりして楽しく遊ぶ。
・新たなぱくぱっくんをつくって遊ぶ。
・選ばなかった物語の舞台での新しい「わくわくものがたり」をつくる。
・ぱくぱっくん動画をつくる。

一斉学習⑫

「わくわくものがたり」をしょうかいしあおう
○自分の書いた「わくわくものがたり」をぱくぱっくんを使いながら伝え合う。

対象：第4学年72名　授業者：田中　暁子、岡野　旭真、三好　夏子　場所：4年各教室　廊下　多目的室

国語科・算数科（2教科同時進行マイプラン学習）学習指導案

<table>
<tr><td>国語科単元名</td><td colspan="3">叙述をもとに登場人物の気持ちを想像しよう～解き明かせ！ごんの最後の思いとは～
教材名「ごんぎつね」（１３時間）</td></tr>
<tr><td>単元の目標</td><td colspan="3">○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにする。　【知識及び技能】
○登場人物の行動や気持ちの変化、性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。　【思考力・判断力・表現力等】
○積極的に、登場人物の行動や気持ちの変化、性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しようとしている。　【学びに向かう力、人間性等】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">小単元の評価規準</td><td>知識・技能</td><td>思考・判断・表現</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td>❶様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。</td><td>❶「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。
❷「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。
❸「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。</td><td>❶進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題にそって中心人物の思いや考えを表現しようとしている。</td></tr>
<tr><td>算数科単元名</td><td colspan="3">どんな広さも正確に表し、求められるように調べよう。
（１１時間）</td></tr>
<tr><td>単元の目標</td><td colspan="3">○公式についての考え方を理解し、公式を用いることができる。面積の単位（平方センチメートル（㎠）、平方メートル（㎡）平方キロメートル（㎢））について知ることができる。　【知識及び技能】
○面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察することができる。　【思考力・判断力・表現力等】
○面積の大きさを数値化して表すことのよさに気付き、いろいろな形の面積を求めようとする態度を養う。　【学びに向かう力、人間性等】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単元の評価規準</td><td>知識・技能</td><td>思考・判断・表現</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td>❶面積の単位と測定の意味がわかり、面積の求め方や単位の関係を理解している。
❷長方形や正方形の面積を、公式を使って求めることができる。</td><td>❶広さを数値化する方法、広さに応じた面積の単位や求め方を考えている。
❷面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考えている。</td><td>❶面積の大きさを数値化して表すことのよさに気付き、いろいろな形の面積を求めようとする態度を養おうとしている。</td></tr>
</table>

国語科「ごんぎつね」のポイント

（１）読み方を選択させるコースの工夫

場面ごとに読み進めるコースと、全体の文章を基に問いを解決するコースを設定し、選択できるようにする。そうすることで、自分の読み方とペースで学習を進めることができるようにした。場面ごとに読み進めるコースでは、場面ごとに、ごんと兵十の人物像、心情、２人の関係、情景描写について、叙述をもとに感じたことや考えたことを書く活動を行う。全文を基に問いを解決するコースでは、児童の初発の感想で出てくる問いを設定し、自分が関心をもった順番で解決していく。

（２）学習の見通しをもたせるための導入と単元末の工夫

導入では、４年生で学習した物語「白いぼうし」、「一つの花」を想起させ、どのような物語だったかや、何に着目して学習したかなどを振り返る。その上で、「ごんぎつね」を読み、単元目標である登場人物の心情変化や情景描写の表現など、叙述に基づいて読むことが大切なことをおさえていく。また、児童の初発の感想の中で、疑問に思うことやもっと知りたいことを学習の「問い」とし、単元全体の学習問題を作っていく。児童にとって、最後の場面のごんの気持ちは叙述では分からないことが多いため、最後の一斉授業では、第６場面のうなずいたときのごんの思いについて、マイプラン学習を通して考えたことを伝え合う時間を設ける。

（３）資料の充実

学習資料を教科書、協働学習支援ツールの資料箱（教科書資料、資料、発展学習）から自分に合ったものを自由に選択し、学習を進められるようにする。物語に出てくる民話的な世界を作り出す語句や事柄について、イメージをもつことができるように写真や実物などを掲示したり、関連ウェブサイト（新美南吉記念館、ごんぎつねものしり図鑑）を資料箱に入れたりする。

（４）児童が主体的に取り組めるような発展学習の充実

発展学習では、ごんと兵十が「互いに送った手紙」、心に残った表現を選んで「本の帯」を作る活動、物語の続きを考えて書く活動、様々な出版社の「ごんぎつね」の絵本や新美南吉の著書を読む活動など、学習した内容を自分なりに表現する活動や読書活動を設定した。自分が取り組みたい発展学習を選ぶことで、「ごんぎつね」の世界観を広げたり、新美南吉にさらに関心をもったりすることができるようにしていく。

算数科のポイント

（１）学び方を選択させるコースの工夫

学び方を２つのコースに分けて選択できるようにした。えんぴつコースは教科書をベースに書いたり読んだりすることを中心に学習を進めていくコースである。もう一つのはさみコースでは、具体物操作によって図形を切ったり動かしたりすることで理解が深められることが得意な児童向けのコースである。２つのコースの意図や良さ、内容を子どもたちに伝えた上で、根拠をもって選択させる。ワークシートで進めるにあたっても、進めているうちに困った場合に具体物への誘導や、二次元コードによる手だてを用意し、一人で学習を進められるようにする。

（２）学習の見通しをもたせるための導入の工夫

導入では長方形や正方形の周りの辺の長さと面積の大きさの関係性について学習する。２つの四角形の周りの辺の長さが同じときに面積も同じだと考えてしまうという調査結果があるため、周りの辺の長さが同じでも面積は違うことを学級で交流を通して確かめる。また、長さやかさでどのように比べてきたのかをふりかえり、本学習の関連を意識して導入を行う。

（３）児童が主体的に取り組めるような発展学習の充実

発展学習は身近にある物の面積を予想して実際に測定する「面積ハンター」、自分で長方形や正方形を組み合わせて作る「面積パズル」、ドット絵のようにゲーム風のマップを作る「ゲーム風マップ作り」など、いくつか準備したものも例示し、発展学習に向けて意欲的に学習を進めることを意識した。

（４）単元末の工夫

単元末では、複合図形を様々な式で求めることを一斉で交流する。面積の求め方が正しくできるかをたしかめるとともに、式から等積変形や倍積変形の考えを見いだすことができることに気付かせる。

国語科「叙述をもとに登場人物の気持ちを想像しよう～解き明かせ！ごんの最後の思いとは～」
単元計画　全１３時間　個別学習１１時間

<table>
<tr><th>内容数</th><th colspan="2">学習活動</th></tr>
<tr><td>一斉
学習
①</td><td colspan="2">オリエンテーション
・物語を読み、感想をもとに学習の「問い」を見付ける。
・進め方でコースを選び、学習計画を立てる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">【学習問題】解き明かせ！ごんの最後の思いとは～叙述をもとに登場人物の気持ちを想像しよう～</td></tr>
<tr><td>②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫</td><td>【場面読みコース】
【第１，２場面を読む】
・ごんと、兵十の性格や人柄について分かる文を見付けて書く。
・ごんがどんなきつねか、兵十がどんな人か考えて、書く。
・学習コーナーにある「ごんと兵十の人物像」の図に、自分の考えを貼る。
・第１，２場面を読んで、ごんの気持ちや兵十の気持ちが分かる文を見付けて書く。
・第１，２場面を読んで、ごんの気持ちや兵十の気持ちについて考えて、書く。
・情景｛周りの様子や景色（けしき）｝を表す文を見付けて書く。
・情景を表す文から、自分が感じたことや考えたことを書く。
・学習コーナーやロイロノートの提出箱を見て、友達の考えを見て考えを広げる。

【第３～６場面を読む】
・ごんの気持ちや兵十の気持ちが分かる文を見付けて書く。
・ごんの気持ちや兵十の気持ちについて考えて、書く。
・ごんと兵十の気持ちを心情曲線で書く。
・情景｛周りの様子や景色（けしき）｝を表す文を見付けて書く。
・情景を表す文から、自分が感じたことや考えたことを書く。
・第１～６場面の情景を表す文の中で、心に残った表現を選び、その理由を書く。
・学習コーナーや協働学習支援ツールの提出箱を見て、友達の考えを見て考えを広げる。</td><td>【全文読みコース】
・第１～６場面を読んで、７つの問いについて、自分で順序を決めて解決していく。
・全文から分かる叙述を見つけて書く。
・問いに対する自分の考えを書く。
・学習コーナーやロイロノートの提出箱を見て、友達の考えを見て考えを広げる。

【問い】
① ごんはどんなきつねか、兵十はどんな人か考えよう。

② 登場人物の関係をまとめよう。

③ ごんの気持ちが変化した出来事は何だろう。

④ 兵十の気持ちが変化した出来事は何だろう。

⑤ 火縄銃を取り落としたときの兵十の気持ちを考えよう。

⑥ ぐったりとしてうなずいたときのごんの気持ちを考えよう。

⑦ 「青いけむり」、「ひがん花がふみ折られている」などの表現は、どのような効果があるか考えよう。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">発展学習</td></tr>
<tr><td>一斉
学習
⑬</td><td colspan="2">・うなずいたときのごんは、どのような思いだったのかと、その理由について伝え合う。
・学習のまとめと単元の振り返りを行う。</td></tr>
</table>

算数科「どんな広さも正確に表し、求められるように調べよう。」
単元計画　全１１時間　個別学習９時間

内容数	学習活動	
一斉学習 ①	問：周りの長さが同じ長方形や正方形が4つあります。広さは同じでしょうか。 め：広さの比べ方を考えよう。	
	えんぴつコース	はさみコース
② ③ ④ ⑤	問：次のような㋐、㋑の色紙があります。どちらがどれだけ広いですか。 め：1㎠を知り、面積を単位で表そう。	問：１２㎠の面積を作りましょう。 め：１㎠を１つ分として、面積を作ろう。
	問：たて4cm、横5cmの長方形の面積の求め方を考えましょう。 め：面積をかけ算で求めることができるかな。	問：２０㎠の面積の長方形を作り、かけ算をつかった面積の求め方を説明しましょう。 め：正方形や長方形の面積を求める、かけ算の公式をたしかめよう。
	問：次の正方形や長方形の面積を、辺の長さをはかって求めましょう。 め：公式をつかって、様々な面積を求めよう。	問：面積が１６㎠になる長方形や正方形を作ってみよう め：公式をつかって同じ面積の様々な形を作ろう。
	問：次のような長方形でも正方形でもない形の面積は何㎠ですか。 め：長方形や正方形でない面積はどのように求めるのか考えよう。	問：長方形でも正方形でもない面積の求め方を考えましょう。 め：図形を切ったり、動かしたりして面積の求め方を考えよう。
チェック テスト	チェックテスト① 「L字型の面積を求めよう。」	
⑥ ⑦ ⑧	問：花だんは、たて3m、横6mの長方形です。この花だんの面積を求めましょう。 め：長さの単位がm（メートル）のときの面積の表し方を考えよう。	問：たて１m、横１mの正方形を新聞紙で作り、面積をたしかめましょう。 め：長さの単位がm（メートル）の時の面積の表し方をたしかめよう。
	問：たて30m、横40mの長方形の形をした畑の面積について調べましょう。 め：1㎡より大きい単位で、もっと広い面積を求めよう。	問：小学校のだいたいの面積を表しましょう。 め：１㎡より大きい単位をつかって、もっと広い面積を求めよう。
	問：正方形や長方形の辺の長さと面積の単位の関係について調べましょう。 め：正方形や長方形の、辺の長さと面積の間にはどんな関係があるのかな。	問：正方形や長方形の辺の長さと面積の単位の関係について調べましょう。 め：正方形や長方形の、辺の長さと面積の間にはどんな関係があるのかな。
チェック テスト	チェックテスト② 「身近な大きい広さの面積を単位に気を付けて求めよう。」	
⑨⑩	め：今までの学習をふりかえって、れんしゅうもんだいに取り組もう。	
発展	面積ハンター　面積パズル作り　ゲーム風マップ作り	
一斉学習 ⑪	問：次の図形の面積の求め方を式で表し、答えを求めましょう。 め：面積の求め方を式で表し、考えを交流しよう。	

対 象：第2学年 76名 授業者：中島 香子、中井 朱里、中島 八恵美 場 所：2学年教室

学校裁量の時間「マイタイム ～自学自習タイム～」 指導案

テーマ	自分の学習状況に合った選択をし、調整をしながら取り組む学習
児童に身に付けさせたい力	・興味関心、長所・短所、得意・不得意など、自分自身を知る 【自己理解力】 ・自ら課題を設定し、課題の解決に向けて取り組む 【追究する力】 ・自らやりたいことを見付け、実現のために自分自身で推進する 【自己実現力】 ・自己の学習計画を振り返り、再計画を通して実現に向けて取り組む 【自己調整力】

学校裁量の時間「マイタイム ～自学自習タイム～」 指導のポイント

学習計画（2年：全19時間） [学習の個性化を目指して…] ＊第1・2学年は、「自学自習タイム」と「ミニ FSPJ」の時数配当を児童の実態に応じて調整。	（分）
【第2学年】	
① オリエンテーション［4月17日（金）］	40
②～⑲ 個人の計画に沿っての活動 ＊20分×2コマで1時間分と設定している場合もあり。	40
日付 ［4月24日（金）］［5月7・8日（木・金）］［5月14日・15日（木・金）］ ［5月21日・22日（木・金）］［5月28日・6月 5日（金・金）］［6月11日・12日（木・金）］ ［6月18日・19日（木・金）］［6月25日・26日（木・金）］［7月 3日（金）］［9月 8日（火）］ ［9月15日（火）］［9月24日（木）］［9月29日（火）］［10月6日（火）］ ［10月13日（火）］［10月16日（金）］［10月20日（火）］［10月23日（金）］★本時	

ポイント1 主体的な学びにつなげる学習内容選択の工夫

・本校の特色ある教育活動に位置付け、マイプラン・リフレクションと関連付けて課題を設定できるようにした。
・課題設定は、学習の個性化を目指し、個人の追究したい教科学習課題を設定できるようにした。
・学習内容を「やるべき（必須）」「やるとよい（推奨）」「やりたい（希望）」に分類し、学習状況に合わせて児童自身がどのような視点で選択したのか自己理解しやすくする。
・一単位時間ごとに学習内容を選択することで、その時に必要な学習に取り組むことができるようにする。

ポイント2 次に学びをつなげ、学習内容選択の質を高める振り返りの工夫

・児童の活動時間を確保するために、導入の提示や振り返りの視点を明確にした。
・学習内容選択の理由を児童自身が振り返られるカードを使い、選択の根拠を認知できるようにした。
・自学自習タイムを通して身に付けたい4つの力を提示することで、児童自身が学習の目的や価値を毎時間確認できるようにする。

ポイント3 個々の学習状況に対応し、児童の学びを深める個別指導・支援の工夫

・設定した課題を見直し、再設定してもよいことにした。
・学習の導入で、翌週のマイプラン（週予定）を確認しながら学級全体で取り組めそうな学習内容を提案し合い、選択の幅を広げられるようにした。
・学習プリントを用意し、学習内容の選択肢を広げることで、自分に適した活動を決定しやすくする。
・これまでの学習内容と比較し、その理由を問う声掛けをすることで、児童がどのような視点で選択しているのか認知しやすくする。

学校裁量の時間 「マイタイム ～自学自習タイム～」

本時の学習の流れ

	主な学習活動（○）	指導上の留意点（◇）
導入3分	○本時の学習内容を共有する。 ・事前に「マイプラン（翌週）」や「児童個々の学習状況」を基に、学級全体で考えた取学習内容から、取り組む学習内容を選択する。 めあて 自分に必要な学習を決めて取り組もう。	◇児童の実態に応じて、学習内容を教師が提示したり児童と一緒に考えたりすることで、自分の課題に適した学習内容を選択できるようにする。 ◇翌週のマイプランを提示することで、児童が選択できる学習内容の幅を広げられるようにする。 ◇複数教科を選択して活動できることを確認することで、児童個々が自分の学びをデザインしやすくする。 ◇前回の自己の学習活動を振り返ることで、取り組んだ学習内容が自己の実態に合っていたか振り返ることができるようにする。（自己理解力）
活動32分	○それぞれの計画を基に活動する。 ・教科書やドリルなどを活用しながら学習に取り組む。 ・ノートや学習プリント、学習用情報端末を活用して、学習した内容をインプットする。 ・学習した内容を、ノートや学習プリントなどにアウトプットする。	◇マイプランを提示したり、学習プリントを用意したりして自分の学習状況を見直し、自分に合った学習内容を選択できるように助言する。（自己調整力） ◇一人ひとりの進捗状況を確認しながら、現在の活動を問いかけることで、目的を意識し取り組めるようにしていく。（追究する力） ◇学習内容に合った学び方ができているか確認し、他の活動方法を提案する。（自己実現力） ◇学習内容を選択した理由を問いかけることで、児童自身が自己選択の根拠を認知しやすくする。
振り返り5分	○学習の振り返りをする。 ・「自学自習」振り返りカードに自分の学習内容、決定理由、学習方法を入力する。	◇学習内容を「やるべき（必須）」「やるとよい（推奨）」「やりたい（希望）」の３つに分類した視点を提示することで、児童がどのような選択をしたのか自己理解しやすくする。

これまでの児童の様子

・国語科「漢字テスト」に向けて、ドリルやノートを活用して学習を進める児童がいた。
・国語科「どうぶつ園のじゅうい」の個別学習課題に取り組む児童がいた。
・国語科「みの回りのものをよもう」で言葉の意味を調べたり、看板を探したりする児童がいた。
・算数科「ミライシード」で既習内容の問題に取り組む児童がいた。
・体育科「体力テスト」に向けて、測定方法やコツを調べる児童がいた。
・体育科「水泳学習」でクロールの泳ぎ方について動画視聴をしてポイントを確認する児童がいた。
・生活科「ぐんぐんそだてわたしの野さい」で自分の決めた野菜についてさらに知りたいことについて調べてまとめる児童がいた。
・生活科「生きものなかよし大作せん」で自分の調べた生き物についてまとめる新聞づくりの続きを行う児童がいた。
・生活科「みんなでつかうまちのしせつ」で学校探検を通して気付いたことをまとめる図書館新聞づくりの続きを行う児童がいた。
・その他「やり終えていない宿題」に取り組む時間に充てる児童がいた。

対 象：第5学年 76名 授業者：安田 美起、岡田 育知、越後 佳宏　　場 所：5学年教室

学校裁量の時間「マイタイム ～自学自習タイム～」 指導案

テーマ	自分の学習状況に合った選択をし、調整をしながら取り組む学習
児童に身に付けさせたい力	・興味関心、長所・短所、得意・不得意など、自分自身を知る 【自己理解力】 ・自ら課題を設定し、課題の解決に向けて取り組む 【追究する力】 ・自らやりたいことを見付け、実現のために自分自身で推進する 【自己実現力】 ・自己の学習計画を振り返り、再計画を通して実現に向けて取り組む 【自己調整力】

学校裁量の時間「マイタイム ～自学自習タイム～」 指導のポイント

学習計画（5年：全15時間） [学習の個性化を目指して…]	（分）
【第5学年】	
① オリエンテーション [4月17日(金)]	40
②～⑮ 個人の計画に沿っての活動	40
日付 [4月24日(金)] [5月 8日(金)] [5月15日(金)] [5月22日(金)] [6月 5日(金)] [6月12日(金)] [6月19日(金)] [10月16日(金)] [10月23日(金)]★本時 [11月 6日(金)] [11月13日(金)] [11月20日(金)] [12月 4日(金)] [12月11日(金)]	

ポイント1 主体的な学びにつなげる学習内容選択の工夫

・本校の特色ある教育活動に位置付け、マイプラン・リフレクションと関連付けて課題を設定できるようにした。
・課題設定は、学習の個性化を目指し、個人の追究したい教科学習課題を設定できるようにした。
・学習内容を「やるべき（必須）」「やるとよい（推奨）」「やりたい（希望）」に分類し、学習状況に合わせて児童自身がどのような視点で選択したのか自己理解しやすくする。
・一単位時間ごとに学習内容を選択することで、その時に必要な学習に取り組むことができるようにする。

ポイント2 次に学びをつなげ、学習内容選択の質を高める振り返りの工夫

・児童の活動時間を確保するために、導入の提示や振り返りの視点を明確にした。
・学習内容選択の理由を児童自身が振り返られるカードを使い、選択の根拠を認知できるようにした。
・自学自習タイムを通して身に付けたい4つの力に対する自己評価を行うことで、児童自身が学習の目的や価値を毎時間確認できるようにする。

ポイント3 個々の学習状況に対応し、児童の学びを深める個別指導・支援の工夫

・設定した課題を見直し、再設定してもよいことにした。
・学習の導入で、翌週のマイプラン（週予定）を確認しながら学級全体で取り組めそうな学習内容を提案し合い、選択の幅を広げられるようにした。
・活動時間を2分割して計画を立てるように促すことで、より主体的に学習内容を選択できるようにした。
・児童個々の認知特性に合った学習方法を決定できるようにすることで、児童が学びやすい環境を設定した。
・これまでの学習内容と比較し、その理由を問う声掛けをすることで、児童がどのような視点で選択しているのか認知しやすくする。

学校裁量の時間「マイタイム ～自学自習タイム～」

本時の学習の流れ

	主な学習活動（○）	指導上の留意点（◇）
導入3分	○本時の学習内容を共有する。 ・「マイプラン（翌週）」や「児童個々の学習状況」を基に、取り組むことができそうな学習内容を考える。 ・考えた学習内容から、自分の学習状況に合わせて取り組む学習を決定する。 めあて 自分の学習状況に合わせて、必要な学習に取り組もう。	◇児童の実態に応じて、学習内容を教師が提示したり児童と一緒に考えたりすることで、自分の課題に適した学習内容を選択できるようにする。 ◇翌週のマイプランを提示することで、児童が選択できる学習内容の幅を広げられるようにする。 ◇複数教科を選択して活動できることを確認することで、児童個々が自分の学びをデザインしやすくする。 ◇前回の自己の学習活動を振り返ることで、取り組んだ学習内容が自己の実態に合っていたか振り返ることができるようにする。（自己理解力）
活動32分	○それぞれの計画を基に活動する。 ・教科書やドリル、動画視聴サイトなどを活用しながら学習に取り組む。 ・ノートや学習プリント、学習用情報端末を活用して、学習した内容をインプットする。 ・学習した内容を、ノートや学習プリント、学習用情報端末などにアウトプットする。	◇マイプランを提示したり、学習プリントを用意したりして自分の学習状況を見直し、自分に合った学習内容を選択できるように助言する。（自己調整力） ◇一人ひとりの進捗状況を確認しながら、現在の活動を問いかけることで、目的を意識し取り組めるようにしていく。（追究する力） ◇学習内容に合った学び方ができているか確認し、他の活動方法を提案する。（自己実現力） ◇学習内容を選択した理由を問いかけることで、児童自身が自己選択の根拠を認知しやすくする。
振り返り5分	○学習の振り返りをする。 ・「自学自習」振り返りカードに自分の学習内容、決定理由、学習方法を入力する。	◇学習内容を「やるべき（必須）」「やるとよい（推奨）」「やりたい（希望）」の３つに分類して提示することで、児童がどのような選択をしたのか自己理解しやすくする。

これまでの児童の様子

・国語科「漢字テスト」に向けて、ドリルやノートを活用して学習を進める児童がいた。
・国語科「読書」を通して、文章力の向上をねらう児童がいた。
・算数科「計算ドリル」で既習内容の練習問題に取り組む児童がいた。
・理科「天気の変化」で単元末に発表する天気予報の資料作りをする児童がいた。
・社会科「自然条件と人々のくらし」で、単元末の発表会に向けてスライド資料を整理する児童がいた。
・体育科「体力テスト」に向けて、測定方法やコツを調べる児童がいた。
・体育科「水泳学習」で苦手な泳ぎ方のポイントについて動画視聴を通して確認する児童がいた。
・体育科「陸上競技」でリレーのバトンパスや走り方の動画を視聴し、動きを確かめる児童がいた。
・図画工作科「ミラクルミラーワールド」でアイデアスケッチを練り直す児童がいた。
・家庭科「裁縫」で苦手な玉止めや玉結びを何度も練習する児童がいた。
・総合「情報モラル」について、動画を視聴し、自己の学習用情報端末の使い方を見直す児童がいた。
・その他「やり終えていない宿題」に取り組む時間に充てる児童がいた。

対 象：第3学年75名　授業者：中尾 育代、長谷川 祐子、白澤 摩巳　場 所：3・6年教室
対 象：第6学年86名　授業者：和田 崇志、原 美都、渡辺 五大　場 所：3・6年教室

学校裁量の時間「マイタイム ～フリースタイルプロジェクト～」 指導案

テーマ	見通しをもって、自分に合った選択をし、計画を進めることができる
児童に身に付けさせたい力	・興味関心、長所・短所、得意・不得意など、自分自身を知る 【自己理解力】 ・ゴールを意識して、自分の目的に合った学習の計画を立てる 【学習計画力】 ・自ら課題を設定し、課題の解決に向けて取り組む 【追究する力】 ・自らやりたいことを見付け、実現のために自分自身で推進する 【自己実現力】 ・自己の学習計画を振り返り、再計画を通して実現に向けて取り組む 【自己調整力】 ・自分自身のことや自分の意見等を、相手や場面に応じて工夫しながら伝える 【自己表現力】 ・他者は自分とは異なり、それぞれの個性・考え方を受け入れ、認識する 【他者理解力】

学校裁量の時間「マイタイム ～フリースタイルプロジェクト～」 指導のポイント

学習計画（全12時間扱い） [学習の個性化を目指して…]			（分）
①	オリエンテーション・テーマ設定	[6月12日(金)]	15
	学習計画の設定・活動場所調査	[6月19日(金)]	25
②～⑨	個人の計画に沿っての活動（40分×8時間）		40
	②[6月26日(金)] ③[7月3日(金)] ④[7月10日(金)] ⑤[9月4日(金)]		
	⑥[9月11日(金)] ⑦[9月18日(金)] ⑧[9月25日(金)] ⑨[10月9日(金)]		
⑩	異学年発表会❶（6年生の発表を聞く）	[10月16日(金)]	40
⑪	異学年発表会❷（6年生に発表する）	[10月23日(金)] ★本時	40
⑫	学級発表会	[10月31日(土)]	40

ポイント1　学習の個性化を支える校内体制の充実

・本校の特色ある教育活動と位置付け、オリエンテーション共通資料（児童用）を作成し、組織的な運営・実践ができるようにした。
・年間35時間以上あるマイタイムの時間の中で、フリースタイルプロジェクトの期間を学校全体で揃えて実施することで、児童が多岐にわたるテーマに合った活動場所を選択して取り組めるようにした。
・保護者のボランティアの協力を募ることで人員を確保し、児童の願いに合わせた活動場所を確保するとともに、活動の安全面に配慮した。
・事前に活動希望調査を行い、児童数を把握することで活動の安全面に配慮した。
・年間35時間以上あるマイタイムの時間の中で、フリースタイルプロジェクトの期間を第1期・第2期に分けて設定し、第1期を踏まえて、第2期の実践に生かせるようにした。

ポイント2　主体的な学びにつなげるテーマ設定、学習計画の設定の工夫

・テーマ設定は、学習の個性化を目指し、個人の追究したい課題を設定し、活動全体の見通しをもって学習計画を立てられるように、前年度までの実践で高学年が作成した発表資料の提示を行ったり、担任と個別に相談しながら学習計画を立てたりした。
・基本的には、児童の意向を優先し、保護者に同意を得たり、担任や担当に相談したりして、児童が自己選択できるようにした。
・異学年発表会では、6年生の発表と3年生の発表を同じ形式にして、先に6年生の発表を聞くことで、初めて発表する3年生も6年生の発表をモデルにして見通しをもって取り組めるようにした。
・活動の最後に異学年発表会や学級発表会を設定し、それぞれの個性・取組・考え方等を受け入れ、認識できるようにするとともに、他児童や他学年の取組の良さを次の実践に生かせるようにした。

ポイント3　個々の学習計画に対応し、児童の学びを深める個別指導・支援の工夫

・計画を変更したり、設定したテーマを見直したりして、テーマを再設定してもよいことにし、教師は学びの伴走者として、必要に応じて相談に乗ったり、支援したりするようにした。

・使用できる用具などは、校内で用意したり、児童自身が用意したりして、児童が自分の活動に必要なものを選択できるようにした。

・児童が設定したテーマや活動計画、振り返りを1枚のカードに記録することで、学習の進捗状況を把握し、自己調整しながら学習を進められるようにした。

学校裁量の時間「マイタイム　～フリースタイルプロジェクト～」　本時の展開

★３・６年がそれぞれ学級を２つのグループに分け、３・６年各教室で半数ずつ発表を行う。

	○主な学習活動	◆指導上の留意点
つかむ３分	○本時の活動内容を確認する。	◆これまでの活動を想起し、単元における本時の位置付けを確認できるようにする。
	【３年】フリースタイルプロジェクトで実せんしてきたことを６年生に発表しよう。 【６年】３年生の実践内容や発表の方法から良さを見つけ、伝えよう。	
	○発表する際や見合う際のポイントを確認する。	◆自己表現力・他者理解力の観点で、本時における大切なポイントを確認できるようにする。
交流する　32分	○３年生が６年生に向けて発表する。 本時までの児童の様子と発表形式例 【発表プレゼンテーション作成型】 ・「生き物」「漢字」、「乗り物」などについて興味をもって調べたことをまとめ、発表資料を作成する。 【実物作成型】 ・手芸でコースターやフェルトぬいぐるみなどを作成するとともに、作成過程を写真や文章でまとめ、発表資料を作成する。 【実技報告型】 ・運動技能(サッカー・野球・バスケットボールなど)の向上を目指し、自分の運動を分析しながら実践を重ね、動画を撮影して発表資料を作成する。 ・グループで合奏曲を決めて演奏風景を動画で撮影し、個人で楽器の仕組みなどについて調べたことと合わせて発表資料を作成する。 【実践報告型】 ・紹介したい「手話」を実際に行い、動画で撮影したものと、手話の種類や意味について調べたことと合わせて発表資料を作成する。	◆フリースタイルプロジェクト第９時の段階で、事前に一人ひとりの発表のスタイルを把握し、発表の流れを決めておくことで、効率よく発表できるようにする。 ◆場の準備や ICT 機器の接続などの支援を行うことで、一人ひとりの発表が計画通りに実現できるようにする。 ◆「自分が実践してきたこと」「なぜそれを実施しようと思ったのか」「実践してきた成果や課題」「実践して感じたこと・思ったこと・考えたこと」などの視点を提示することで、児童一人ひとりが、自己表現できるようにする。 ◆適宜、発表後に、振り返る視点を投げかけることで、それぞれの発表に関して、称賛する視点を明確にもてるようにする。 ◆６年生には、今までの実践経験を踏まえて、具体的に内容や方法の良さを価値付けできるように聴くように促す。
まとめる　５分	○本時の学習のまとめを行い、次時の見通しをもつ。 ※振り返りシートを活用したフリースタイルプロジェクト全体を通した振り返りは、次時で行う。	◆異学年小グループで全員が振り返りを行うことができるようにする。 ◆「これまでの学習の流れ」「６年生に発表してみて」「学級発表に向けて」「第２期のフリースタイルプロジェクトについて」など、振り返る視点を明示することで、児童一人ひとりが自己の学びの成果を実感し、次につなげることができるようにする。 ◆聞き手である６年生に３年生の実践内容や発表の仕方の良さについて価値付けしてもらうようにする。

対 象：第6学年86名　授業者：和田 崇志、原 美都、渡辺 五大　　場 所：6年教室

学校裁量の時間「マイタイム ～フリースタイルプロジェクト～」 指導案

テーマ	自分の目的に合った選択をしながら取り組み、振り返りと再計画をくり返し、調整できる	
児童に身に付けさせたい力	・興味関心、長所・短所、得意・不得意など、自分自身を知る	【自己理解力】
	・ゴールを意識して、自分の目的に合った学習の計画を立てる	【学習計画力】
	・自ら課題を設定し、課題の解決に向けて取り組む	【追究する力】
	・自らやりたいことを見付け、実現のために自分自身で推進する	【自己実現力】
	・自己の学習計画を振り返り、再計画を通して実現に向けて取り組む	【自己調整力】
	・自分自身のことや自分の意見等を、相手や場面に応じて工夫しながら伝える	【自己表現力】
	・他者は自分とは異なり、それぞれの個性・考え方を受け入れ、認識する	【他者理解力】

学校裁量の時間「マイタイム ～フリースタイルプロジェクト～」 指導のポイント

学習計画（全12時間扱い） [学習の個性化を目指して…]			（分）
①	オリエンテーション・テーマ設定	[6月12日（金）]	15
	学習計画の設定・活動場所調査	[6月19日（金）]	25
②～⑨	個人の計画に沿っての活動（40分×8時間）		40
	②[6月26日（金）]③[7月 3日（金）]④[7月10日（金）]⑤[9月4日（金）]		
	⑥[9月11日（金）]⑦[9月18日（金）]⑧[9月25日（金）]⑨[10月9日（金）]		40
⑩	異学年発表会❶（3年生に発表をする）	[10月16日(金)]	40
⑪	異学年発表会❷（3年生の発表を聞く）	[10月23日(金)]	40
⑫	学級発表会	[10月23日(金)] ★本時	40

ポイント1　学習の個性化を支える校内体制の充実

・本校の特色のある教育活動と位置付け、オリエンテーション共通資料（児童用）を作成し、組織的な運営・実践ができるようにした。
・年間35時間以上あるマイタイムの時間の中で、フリースタイルプロジェクトの期間を学校全体で揃えて実施することで、児童が多岐にわたるテーマに合った活動場所を選択して取り組めるようにした。
・保護者のボランティアの協力を募ることで人員を確保し、児童の願いに合わせた活動場所を確保するとともに、活動の安全面に配慮した。
・事前に活動希望調査を行い、児童数を把握することで活動の安全面に配慮した。
・年間35時間以上あるマイタイムの時間の中で、フリースタイルプロジェクトの期間を第1期・第2期に分けて設定し、第1期を踏まえて、第2期の実践に生かせるようにした。

ポイント2　主体的な学びにつなげるテーマ設定、学習計画の設定の工夫

・テーマ設定は、学習の個性化を目指し、自分の興味・関心や得意なこと、好きなことを振り返り、その中から実現できる活動かを考えながら絞り込み、追究したい課題を設定できるようにした。
・基本的には、児童の意向を優先し、保護者に同意を得たり、担任や担当に相談したりして、児童が自己選択できるようにした。
・活動の最後に、異学年発表会や学級発表会を設定し、それぞれの個性・取組・考え方等を受け入れ、認識できるようにするとともに、他児童や他学年の取組の良さを次の実践に生かせるようにした。
・異学年発表会では、6年生がモデルとなる発表を行うことで、3年生が活動の見通しをもち、安心して発表に取り組めるようにした。
・学級発表会では、「学級全体へ発表」と「グループでの発表」の二部構成とし、児童が自分の特性や思い、内容に応じて発表方法を選択できるようにすることで、一人ひとりが自信をもって自己表現できる場を保障した。

ポイント3　個々の学習計画に対応し、児童の学びを深める個別指導・支援の工夫

・計画を変更したり、設定したテーマを見直したりして、テーマを再設定してもよいことにし、教師は学びの伴走者として、必要に応じて相談に乗ったり、支援したりするようにした。

・使用できる用具などは、校内で用意したり、児童自身が用意したりして、児童が自分の活動に必要なものを選択できるようにした。

・児童が設定したテーマや活動計画、振り返りを一枚のカードに記録することで、学習の進捗を把握し、自己調整しながら学習を進められるようにした。

学校裁量の時間「マイタイム　～フリースタイルプロジェクト～」　本時の展開

	○主な学習活動	◆指導上の留意点
つかむ　3分	○本時の活動内容を確認する。	◆これまでの活動を想起し、単元における本時の位置付けを確認できるようにする。
	フリースタイルプロジェクトで実践したきたことを発表し合おう。	
	○発表する際や見合う際のポイントを確認する。	◆自己表現力・他者理解力の観点で、本時における大切なポイントを確認できるようにする。
交流する　32分	○それぞれの発表をする。 （友達の発表を聞く。） ①第１部　全体発表 ・一人が学級全体に向けて発表する ②第２部　グループ発表 ・４～５人のグループ内で、ローテーションして発表する 本時を迎えるまでの児童の様子 【発表プレゼンテーション作成型】 ・「城のつくり」「乗り物」、「ゲーム」などについて興味をもって調べたことをまとめ、発表資料を作成する。 【実物作成型】 ・スライムをつくり、実験の過程を写真や文章でまとめ、発表資料を作成する。 ・身近なもの（トイレットペーパーの芯）を使って工作し、制作過程を写真などでまとめ、発表資料を作成する。 【実技報告型】 ・運動技能（サッカー・バスケットボール・体操など）の向上を目指し、自分の運動を分析しながら実践を重ね、動画を撮影して発表資料を作成する。 ・演奏したい曲を決め、演奏を動画で撮影し、発表資料を作成する。	◆フリースタイルプロジェクト第９時の段階で、事前に一人ひとりの発表のスタイルを選択し、発表の流れを決めておくことで、効率よく発表できるようにする。 ◆場の準備やICT機器の接続などの支援を行うことで、一人ひとりの発表が計画通りに実現できるようにする。 ◆異なるテーマの児童でグループを編成することで、多様な視点や表現に触れ、互いに刺激を受けながら学びを広げられるようにする。 ◆「自分が実践してきこと」「なぜそれを実践しようと思ったのか」「実践してきた成果や課題」「実践して感じたこと・思ったこと・考えたこと」などの視点を提示することで、児童一人ひとりが、自己表現できるようにする。 ◆適宜、発表後に、振り返る視点を投げかけることで、それぞれの発表に関して、称賛する視点を明確にもてるようにする。
まとめる　5分	○学習のまとめをする。 ・振り返りカードを活用し、本時だけではなく、フリースタイルプロジェクト全体を通した振り返りをする。	◆「これまでの学習の流れ」「学級発表してみて」「友だちの発表を聞いて」「第２期のフリースタイルプロジェクトについて」など、振り返る視点を明示することで、児童一人ひとりが自己の学びの成果を実感し、次につなげることができるようにする。 ◆児童に身に付けさせたい力の視点で、本単元のまとめをすることで、第２期のフリースタイルプロジェクトにつながるように価値付け・動機付けなどをする。